



タイ国際航空では、「ランド・オブ・スマイルーほほ笑みの国」と呼ばれる、タイの人々が伝統的に持つ温かいもてなしの心で、上質な空の旅を日々提供している。

― 直行便就航による仙台・宮城・東北からタイへのアウトバウンド拡大に向けた期待についてお聞かせください。
東北エリアからのアウトバウンドの増加にも大いに期待しています。タイ本社は、来年の7月からタイスマイル（タイ国際航空の100%子会社）を利用し、台湾の高雄と仙台を結びたいと計画しています。現在、バンコクから高雄までは毎日運航しているのですが、そのうち週4便を延伸して運航したいと考えています。これが実現すれば、週3便のバンコク―仙台直行便に週4便の經由便が追加され、デリーに仙台とタイをつなぐことが可能になりますし、台湾の方々もより仙台に訪れやすくなるでしょう。

― 総支配人のタイ観光のおすすめスポットを教えてください。

プーケットやチェンマイ、アユタヤなどは、有名な観光地としてご存じのことと思いますが、それだけでなく、隠れたビーチとでも申しませうか、

タイ国際航空では、「ランド・オブ・スマイルーほほ笑みの国」と呼ばれる、タイの人々が伝統的に持つ温かいもてなしの心で、上質な空の旅を日々提供している。

― 最後に、今後の取り組みについて、お聞かせください。
仙台線就航に関してお話ししますと、牛たん、日本酒、お米、そして果物といった東北のおいしいものを、タイからの観光客の皆さまにお召し上がりいただくことなどで、積極的に紹介していきたいと考えています。同時に、弊社で輸送することで、タイ国内でも東北の豊かな文化を体験していただけるよう、取り組みを促進していきたいと思っております。東北の美しい自然、温泉、スキーリゾート等への観光誘致にも貢献してまいります。

日本とタイの文化をつなぐ架け橋に

プーケットのほど近くにあるクラブビは、非常に静かに過ごすことができるビーチなので、東北の皆さまにもおすすめしたい場所のひとつです。さらに、タイの東北地方であるイサン地方にもぜひ足を運んでいただきたいと思っております。日本の東北と同じというわけではありませんが、農業が盛んな土地です。ぜひ同じ東北という目線で見比べてみてください。

【概要】 タイ国際航空

代表者：スメート ダムロンチャイタム
設立：1959年8月24日
運航開始：1960年5月1日
資本金：218億バーツ
事業内容：タイ国政府資本を中心とするナショナル・フラッグキャリア。バンコクをハブに世界32カ国60都市以上を結ぶ。
本社所在地：タイ王国バンコク
東京事務所所在地：東京都千代田区有楽町1-5-1
日比谷マリンビル
TEL. 03-3593-0522
HP：https://www.thaiairways.com/

よび商店街のお店等で利用できるよう、鋭意、準備をしているところでです。
タイと日本には、130年以上の長い歴史と外交関係があります。日本はタイ国際航空にとって、最大の取引国であり、日本人観光客と投資家の数はタイのランキングではトップ3に入ります。私たちは日本での路線拡大を続けることで、観光や商取引を促進させ、両国の友好関係、そして文化をつなぐ架け橋となるエアラインでありたいと考えています。タイ国際航空において日本路線をタイ国外でのナンバーワン路線とすることで支えてくださっているすべての日本の皆さまに感謝申し上げます。日本の冬はタイのベストシーズンに当たります。観光やグルメ、ゴルフも楽しめます。ぜひ、この機会にタイへお越しください。

クローズアップインタビュー

バンコク―仙台線 就航を機に、 130年余り続く友好関係を より豊かなものにして まいりましょう。

タイ国際航空
日本・アメリカ地区総支配人

アーヌパープ キットイクン 氏

プロフィール

1974年生まれ。血液型B型。
タイ・バンコク出身。米国マサチューセッツ州にあるバブソン大学にてマーケティング&マネジメントを学び、タイのサシン経営大学院にて経営学修士を取得。2003年、タイ国際航空に入社。福岡（南日本地区）やノルウェーなどのオフィスで総支配人の要職を歴任。2017年11月まで、メルボルンオフィスにおいて南オーストラリア地区総支配人を務め、同地区の営業活動を統括し、2017年12月より現職。好きな言葉は、「いま、できることにベストをつくす」という意味の「Do your best」。趣味は読書、ゴルフ。



来年は記念すべき就航60周年

― 10月30日、5年ぶりにバンコク―仙台線が再開しました。そこで、改めて御社の事業内容および現在の心境をお聞かせください。

タイ国際航空は、タイ財務省が50%以上出資しているタイを代表する航空会社です。現在、世界の63都市および、タイ国内10都市に運航しています。
来年2020年は、5月1日に就航60周年を迎えることから、弊社にとって大変重要な年に当たります。1960年の就航と同時に羽田空港に乗り入れましたので、日本との付き合いも60周年ということになります。日本国内では札幌、東京（成田・羽田）、名古屋、大阪、福岡で運航しています。水・金・日曜の週3回、仙台―バンコク間を結ぶ仙台線が加わりましたので、現在は6都市、週8便を運航しています。

今回の仙台便再開に際しての心境をお話しますと、刻々と変化する世界情勢の中にあつて、日本はタイ人にとって最も人気のある国になりました。仙台、宮城、東北の皆さま、そして観光業に携わる皆さまが、あらゆる点において今回の直行便就航を喜んでくださり、協力していただいていますので、バンコク―仙台線の成功に、弊社としてもより大きな自信を抱いているところです。

大型の機体を活用 商取引の拡大にも期待

― タイから日本への輸出など、ビジネスの現状と、直行便就航による経済効果をどのようにお考えですか。

日本への主要輸出品目は、マンゴーやマンゴスチンなどのフレッシュフルーツ、マグロ、蘭の花などとなっています。また、タイ以遠に広げますと、カンボジアやバングラデシュからのアパレル用品のほか、インドやネパールの茶葉、アフリカからの熱帯に生息する鳥類などが、バンコク経由の弊社便を利用して日本に輸出されています。

また現在、貨物部門において、東北エリアの各企業に対して、貨物の輸出に弊社直行便をご利用いただけるようアプローチをしているところでです。すでに興味を示してくださっている企業もございますので、今後は、この直行便をご活用いただき、豊かな双方の商取引が仙台・宮城および東北エリアにおいても拡大することを期待しています。

この直行便に使用される機体は、ボーイング777-300型機という非常に大きな機材で、トータルで300以上の座席があります（ビジネスクラス30席・エコノミークラス279席）。もちろん、カーゴスペースも広いので、ぜひ多くの貨物輸送にご利用いただきたいと思います。

より良い環境をめざす。

青葉環境保全 **AOBA**

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL.022(286)3161(代)

